

令和3年度刈谷市地域福祉計画懇話会 議事録

1 日 時 令和3年10月27日(水) 10:00 ~ 11:15

2 場 所 刈谷市役所3階 防災会議室

3 委員(敬称略)

【出席者】

団体等名	役職等	氏名	備考
愛知教育大学	准教授	佐野 真紀	会長
刈谷市自治連合会	会長	大野 裕史	
刈谷市民生委員・児童委員連絡協議会	会長	羽谷 周治	会長職務代理者
刈谷市ボランティア連絡協議会	会長	富田 宜弘	
刈谷市身体障害者福祉協会	会長	石川 恵美子	
子育てネットワーク刈谷「エンゼル」	代表	箕浦 ひろみ	
北部地区社会福祉協議会ハートの会	会長	大矢 睦子	
南部地区社会福祉協議会	幹事	水谷 さわ子	
中部地区社会福祉協議会	会長	面高 俊文	
刈谷市赤十字奉仕団	副委員長	加藤 裕子	
刈谷市役所福祉健康部	部長	村口 文希	

【事務局】

所属	補職名	氏名
福祉健康部福祉総務課	課長	丹羽 雅彦
福祉健康部福祉総務課	課長補佐	加藤 覚子
福祉健康部福祉総務課総務係	係長	前島 康孝
福祉健康部福祉総務課総務係	主事	岩間 陽子
社会福祉協議会総務課	課長	加藤 重行
社会福祉協議会総務課	課長補佐兼総務係長	二井 久枝
社会福祉協議会事業推進課	事業係長	川口 剛史
社会福祉協議会生活支援課	課長補佐兼相談支援係長	神谷 節子

4 議題

- (1) 第4次刈谷市地域福祉計画の進捗状況について 資料1 ～ 資料3
(2) その他

5 意見・質疑等

【議題1】 第4次刈谷市地域福祉計画の進捗状況について

※資料1～3を事務局説明

○ 会長

議題1について、質問等はあるか。事務局からコロナ対応でどのように変わったかも詳しく説明があったが、いかがか。

○ 委員A

新計画がスタートし2年経つが、開始と同時にコロナの影響を受けていると思う。特に行事やイベント、講習は大きな影響を受けていると思うが、コロナの影響を受けずに順調に進んだ分野と、直に影響を受けてしまい、残りの3年で巻いて進めていく必要がある分野があると思うが、例えばどのような分野があるか。

○ 事務局

影響を受けている分野と受けていない分野には分けてはいないが、福祉関係で影響を受けた大きなものと言うと、福祉・健康フェスティバルが挙げられる。これは昨年度も今年度も開催中止となっている。昨年度については、コロナの影響を受けた初年度ということもあり、早い段階から中止の決定をした。今年度については、できる限り開催したいという思いがあったため、実行委員とも協議を進め、半日開催にする等イベントの縮小の案もあったが、やはり不特定多数の方が来場するため、開催は難しいという結論になり、開催を断念した。その結果、福祉・健康フェスティバルは2年連続開催できず、コロナの影響を受けてできなかった大きいものと考えている。

コロナ禍においても影響を受けずに進められている分野もあるが、洗い出しまではしていない。今年度においては、昨年度行えなかった事業も規模の縮小や形を変えて行うなど、工夫を凝らしながら進めているのが現状である。

○ 委員A

第4次刈谷市地域福祉計画は5年計画とはいえ、令和5年度に進捗状況の評価を行う計画になっていると思う。そうすると、実質4年になり、現時点で折り返し地点におり、来年度及び再来年度の2年間で倍速で進めなければいけないものも出てくる。成果指標を見ると、3つの基本目標のそれぞれ一番上の指標項目（刈谷市の地域福祉が進んだと感じる割合、地域のつながりが強いと感じる割合、刈谷市の福祉水準が高いと感じる割合）がすべて評価対象者の感応評価になっている。それ以外の指標は、明確に答えられるが、感応評価は大きくぶれる可能性がある。福祉・健康フェスティバルも含め、雰囲気や経験によってぶれるため、残り2年で作戦を立て、戦略的

に進めないとか各成果指標の一番上の重要な指標が下がる恐れがあるのではないかという懸念がある。

○ 事務局

確かに一番上の項目は、個人の感じる部分が答えになってくると思う。そのため、コロナ禍で多くのものができなくなると、指標が下がってしまう可能性も大きくなると思う。この指標を上げるためには、各々の福祉活動やボランティア活動等を通じて福祉に触れ合う機会を設けることが必要だと思っている。令和5年度が進捗状況の調査のため、そこに向けてできる限りのことを進めていきたいと思っている。

○ 会長

コロナ禍で私たちが一番苦しんでいることは、人と人とのつながりが途絶えてしまうことだと思う。地域福祉計画は、まさに人と人をつなごう、地域をつなごうという計画であって、直に影響を受けてしまっている。資料をみると、行政としての役割、例えば防災の分野等は事務的に粛々とできるところは進めていけると思うが、それ以外のつながりをどのように作っていかうかという部分が思うようにいかないところがあると思う。いろいろな工夫を凝らしていると思うが、オンライン会議にしても慣れている世代とそうではない世代があり、どうしても全体的に進められない部分もあり難しいが、委員Aのおっしゃるとおり、残り2年で巻いていかなければならないと思う。コロナがそのまま落ち着いた状態が続けばいいが、そうもいかないのが現実だと思う。

このような状況下において、地域ではどんな工夫をしながら活動しているのかをこの場で話してほしいという依頼が事務局よりあったがいかがか。

○ 事務局

地域で工夫をしながら進めているものがあれば、勉強させていただきたい。

○ 会長

地域で対面することが難しい今、私たちはこんな工夫をしていますというものがあれば発表してほしい。

○ 委員A

計画の取組は191もの膨大な項目があり、それに全部目配りするのは難しい。ポイントを絞って重要事項をウエイトづけしながら取り組んでいるのだが、地区にとって一番重要なのは担い手不足である。担い手を発掘し、協力者を増やさなければならない。これが制度そのものや活動の継続性につながると思う。そこで、中部地区社協では、そのための施策として、計画し準備中のものがある。

余談だが、昨日愛知県の会議に出席した。多くの課題があるが、一言で言うと、行政のオペレーションの中に、少子高齢化がはっきりとマイナス要因として出てきたというのが結論。コロナの影響になるが、医者絶対数が減少、特に有能な医者の負荷が大きすぎて残業が増えてしまっている。命がけで職務を遂行している状態である。消防局の消防士も地域の消防団員も集まらな

いのが現状。平均して、県内の充足率は8割で、ずっとマイナスが続いている。自衛隊も募集しても集まらない。基幹の部分で人手不足が発生している。これが愛知県の一つ大きな問題意識としてあり、これを補うためにどうするか。ここからが提案で、それは生産性を上げるしかない。人がいないわけだから。確保できた少ない人員を1、2割減になってしまった状況で100%の仕事をするしかない。そのためには生産性を上げる。対象者を減らすという選択肢もちろんあるのかもしれないが、それは現実的に難しい。紙ではなくリモートに切り替えて仕事をする、ICTに切り替えることでかなり補える。特に医療の世界では1割から1割5分補えるという数字が出ている。このようなことも含め、福祉行政も対面が一番重要なことであるのは間違いないが、効率をどうやって上げていくかが課題である。例えば、課題の中には、行政に義務化された災害時の避難行動要支援者個別計画づくりの問題がある。これも名簿にある全員分を作成する必要があるのかどうかを洗い直す必要がある。本当に作成が必要なのは、感覚ではあるが、この名簿の2～3割ではないかという気がする。具体的に生活実態・居住実態あるいは備蓄、最善の策等を調査し、実態を把握してから判定していくことが必要だと思う。しかし、今のガイドラインに沿って支援者を明確にして、避難所を明確にして、避難経路を明確にする、この3つができれば個別計画は完成する、このような方法では何の役にも立たない。絵に描いた餅のようなもの。その辺のところを含めてどうやって効率を上げていくかということを考えていただきたい。

話は戻るが、担い手づくりについて、現在、社会福祉協議会で準備を進めてもらっている。来年度地区で福祉サポーター養成講座を開始する予定である。時間が少し空いている、生活に余裕がある、少し手伝いたいという人たちをボランティアという形で従来導入しているが、その方々にさらに福祉講座も受講してもらい、福祉の担い手となるための受け皿を準備してもらっている。

○ 会長

担い手の話もそうだが、ボランティア活動をする時、ボランティア団体は盛んになって衰退していくという波が起こることが多い。後から会に入ってくるのは難しいことで、団体の立ち上げの時には、意欲のある人がやっているが、徐々に会が大きくなり、次にこれを引き継いでいく時に、会としてできあがったところに入ってくるため、熱意が違い、「自分にはそれはできない」となってしまう、なかなか維持していくのは難しいのが現実である。

地区もそうであって、地区長を選ぶのも非常に大変なもの。すごく勢いよく進められる力のある地区長がいて、この地区すごくよくなったとなり、次の担い手を決める時に、自分はそんな風にはできないと尻込みしてしまい、担い手を発掘・継続していくのはとても難しい。

○ 委員B

本日、刈谷市の160人の民生委員の会長としてこの場に参加しているが、先ほど事務局の説明に非常に興味を持ちながら傾聴した。民生委員が多く絡んでいるため、やりがいを持って活動してきた。事務局からの説明にあったように、民生委員の認知度が当初6.7%だったのが、10%を超えたということは嬉しいこと。是非令和5年度は15%に乗せていっていただきたい。

また、愛知県看護師協会の総会で県の民生委員の代表として私に講演会をやってほしいと依頼があった。以前は認知度が6.7%しかなかったにもかかわらず指名していただき、大変ありがたい。愛知県に多くの会長が存在する中、刈谷市にぜひ登壇してほしいと言われた。そのような中、事務局が説明した内容に非常に興味を持っており、どれをとっても疎かにできない。

そこで、一番の懸念は、委員Aもおっしゃっていた通り、担い手づくりである。来年の11月には民生委員の一斉改選があり、おそらく半数程度変わると思う。変わることは悪いことじゃない。変わって行って、また新しい民生委員の活動を理解する人が増えることは喜ばしいことだが、立候補する人がなかなかいないのが現状であり、非常に懸念している。

話は戻るが、コロナ禍で対面が難しい中で、事務局からも説明があったように、民生委員が暑中見舞いを出すことも行っている。「お元気ですか」「がんばっていますか」等、訪問できない部分は、そういう形で接している。そして、「あなたたちのことは、決して忘れていませんよ」「あなたたちの後ろには、微力ですが、我々もついていきますよ」という安心感を少しでも与えられたらと思っている。これは民生委員だけの問題ではなくて、地域の社会福祉の問題にもなっている。そういった微々たる努力の積み重ねにより、認知度が10%に上昇したのではないかと嬉しく思っている。このように福祉問題について民生委員の立場で意見を述べることができるのは幸いだと思っている。

○ 会長

民生委員の活動は、本当に日々の細かなことの積み重ねだと思うので、例えば暑中見舞いもそうですが、小さな努力が積み重なって認知度向上につながっていると思う。対面の訪問ができない中で、人と人をつなげるのは難しいが努力していくことが必要だと思う。昨年1年間を通して、いろんな面で生活に困窮してきており、大変な時代を共に生きている。

また、福祉サポーター養成講座を始めたり、北部の地区社協も形を変えていくなど、いろいろな経験を積み新しい形ができていくだろう。

【議題2】 その他

事務局より、次の開催について、令和4年度の秋頃を予定していると説明。

○ 会長

全体を通して、意見・質問はあるか。

○ 委員A

刈谷市北口周辺の開発、駅舎の改修が進んでいる。バリアフリー基本構想に沿って、刈谷駅中心のバリアフリー化のハード面の改善が進んでいるのはありがたいことではあるが、駅周辺以外のバリアフリー化が今後どうなっていくかということと、刈谷市駅から亀城公園へ向けての構想があり、そのバリアフリー化も当然進めなければいけない。ただ、法律で決められたことのみをやればいいのではなくて、刈谷市が主体的に中心市街地を作る、いわば名所づくり、観光拠点づくりという位置づけもあるわけなので、ふさわしいバリアフリー化を検討していただきたい。

主管部署が都市交通課となっているが、これはハード面に徹している。資料の中には、もちろん心のバリアフリーも記載されているが、ではこれをどのように進めていくのかとなったときに具体的には記載されていない。いわば、ソフト面のバリアフリー化を刈谷市としてどう進めていくのかは、都市交通課ではなくて、福祉担当部局の役割だと思っているので、計画を是非検討していただきたい。

○ 事務局

心のバリアフリーの推進はやはり福祉部局が担うことになると思う。地域福祉計画の中には、心のバリアフリーという言葉を用いてはいないが、策定するときには考慮しながら策定している。基本目標1の中の福祉教育等を進めることで、心のバリアフリーが進むかと思う。福祉実践教室がコロナ禍で実施できていないが、今年度は従来とは違った形を模索しながら進めている。幼少期から福祉教育していくことで、心のバリアフリーの推進ができればと考えている。

○ 委員A

今年、東京オリンピック・パラリンピックが開催された。前回の1964年の東京オリンピックのレガシーはハード面、例えば新幹線や高速道路等。今回のオリンピックでは何も残らず、残すものを作ったのはパラリンピック。これは、ダイバーシティ&インクルージョン、要は多様性と調和であって、共生社会を作るという機運がパラリンピックのレガシーとして残ったというのが大方の評価である。そのレガシーが1、2年経つと薄れていくため、これを地域で無限化する必要があると考えているので、参考にしていただければと思う。

○ 委員C

車いすを利用している障害のある人の生活圏の道路の整備がまだ追いついていない。駅周辺の調査時に参加させてもらったが、そういう話題も出ており、車いすを利用する人も高齢化し苦勞することが多いため、順番で構わないのでお願いしたい。

○ 事務局

ハードの方のバリアフリーに関しては、都市交通課が徐々に整備しているが、福祉部局としても都市交通課と連携しながら検討していきたい。ご不便をおかけしているが、よろしく願いたい。

○ 会長

他に意見・質問はあるか。(その他の意見無し)以上をもって「令和3年度刈谷市地域福祉計画懇話会」を閉会する。